

**【2年連続採択】** 昨年度(申請区分 B)採択・実施の成果を拡充発展させる後継事業

令和8年度 中小企業等知的財産支援地域連携促進事業費補助金(中小企業等知的財産支援事業)

令和8年6月吉日  
(公財)北九州産業学術推進機構

報道機関各位

## 大学の「眠れる特許」が **5万件のビジネスアイデア** に変わる ～生成 AI×知財活用インフラ で地域中小企業の新規事業創出を支援～

公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)は、株式会社 Konel(知財図鑑メディア運営)、株式会社 FFG ビジネスコンサルティング、北九州市東京事務所と連携し、地域大学が保有する知的財産を活用した新規事業創出支援事業を開始します。

本事業では、生成 AI を活用して大学特許約 500 件から約 5 万件のビジネスアイデアを創出・可視化した「アイデアランドスケープ」を構築します。企業は自社の課題や事業テーマから関連する技術やアイデアを探索できるようになり、大学知財との新たな接点を創出します。

また、ワークショップや伴走支援を通じて、知財活用による新規事業創出や産学連携を促進し、地域経済の活性化を目指します。

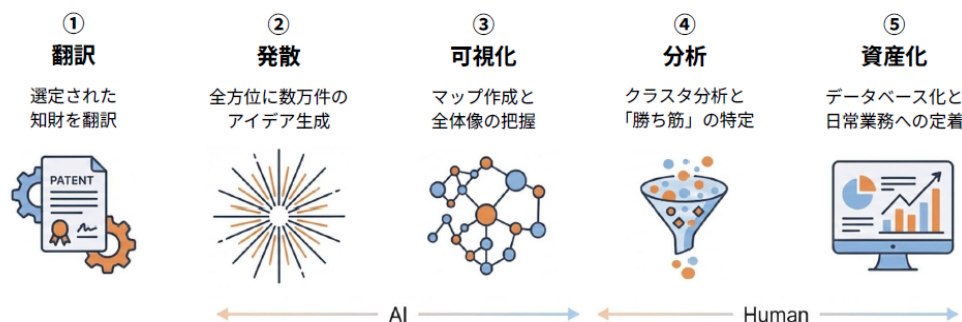
### 1 事業概要

#### ○アイデアランドスケープの構築

地域大学が保有する特許約 500 件を対象に、生成 AI を活用して約 5 万件のビジネスアイデアを創出・分析し、技術と市場の可能性を俯瞰できる「アイデアランドスケープ」を構築します。

#### アイデアランドスケープの実施内容

「翻訳」から「資産化」までの5つのステップで、新規事業の領域を探索します



大量のアイデアで「可能性の全体像」を描き、構造化した地図で探索する

企業は、自社の課題や関心領域から関連する技術・アイデアを探索できるようになり、従来は見つけにくかった大学知財とのマッチング機会を創出します。

## ○解釈レポート・情報提供サイトの公開

アイデアランドスケープを分析し、有望な技術領域や市場機会を整理した解釈レポートを作成します。

また、レポートやランドスケープを掲載する情報提供サイトを公開し、ワークショップ参加者だけでなく広く地域企業が活用できる環境を整備します。

## ○新規事業創出ワークショップの開催

北九州・福岡・長崎・東京の4地域において、アイデアランドスケープを活用したワークショップを開催します。

参加企業は生成 AI や可視化ツールを活用しながら、自社の経営課題や事業テーマに関連する大学知財を探索し、新たな事業機会の創出に取り組みます。

## ○事業化に向けた伴走支援

ワークショップ参加企業のうち、事業化意欲の高い企業に対して専門家による伴走支援を実施します。

大学研究者とのマッチング、共同研究の調整、外部資金獲得支援などを通じて、新規事業の実現を後押しします。

## 2 スケジュール(予定)

時 期	内 容
令和8年6月～8月	アイデアランドスケープ構築、企業ヒアリング
令和8年8月～9月	解釈レポート作成、情報提供サイト公開
令和8年9月～12月	4地域ワークショップ開催
令和9年3月	成果取りまとめ

※セミナー等の詳細は FAIS ホームページにて順次お知らせします。

## 3 本事業の特徴

### ○ 大学知財を『読む』から『活かす』へ

従来は専門知識が必要だった大学特許の探索を、生成 AI による可視化によって誰でも取り組みやすい環境へ転換します。

### ○ ニーズ起点の知財活用

企業が保有する課題や市場ニーズから関連する技術やアイデアを探索できるため、事業化につながる可能性を高めます。

### ○ 産学連携の実装支援

ワークショップだけで終わらず、伴走支援を通じて共同研究や事業化へとつなげます。

## 4 期待される効果

- 地域大学が保有する知的財産の活用促進
- 地域企業の新規事業創出支援
- 大学と企業の新たな産学連携機会の創出
- 首都圏企業や投資家との接点拡大
- 北九州学術研究都市の研究成果の発信強化

【お問合せ先】 (公財)北九州産業学術推進機構(FAIS) 産学連携センター 産学連携部  
担当: 則松(部長)、藤本(担当部長)  
TEL: 093-695-3006

## 5 【参考】

### なぜこのような取り組みが必要なのか

<h3 style="color: #e67e22;">78.8%</h3> <p><b>未利用率</b></p> <p>大学・公的研究機関が保有する国内特許のうち、企業との接点を持たないまま未利用となっている割合（特許庁 令和6年度調査）。</p>	<h3 style="color: #0056b3;">3つの壁</h3> <p><b>「知の断絶」の構造</b></p> <p>①理解の壁（特許文献が難解） ②翻訳の壁（技術→事業ニーズへの変換不能） ③接点の壁（マッチング機会の不足）</p>	<h3 style="color: #0056b3;">ideaflow</h3> <p><b>本事業の解決策</b></p> <p>生成AIがこれら3つの壁を一気に突破。特許を「使えるビジネスアイデアの地図」に変換し、企業が自分で探せる常設インフラを構築。</p>
---	---	---

### 令和7年度事業 —— 採択・実施済みの実証成果

<p><b>企業向けワークショップ</b></p> <p>13社 18名参加・60分で <b>929件</b>のアイデアを創出 参加企業満足度 <b>75%</b></p>	<p><b>大学 PBL 型講義（全13回）</b></p> <p>学生 62名・企業 7社が参加し、<b>12件</b>の新規事業提案を創出 成果報告会 94名参加、次年度継続意向 <b>70%</b></p>
--	--

### 令和7年度事業の新事業アイデア事例

#### Case01 未来の環境を育む、学びと遊び×分別・リサイクル実践アプリ

西原商事の特許「廃棄物一元管理システム」（種類・量の記録、CO2排出量自動計算）をバックエンドに活用し、小中学生をターゲットにした環境教育アプリを構想。AI画像認識による写真からのゴミ判別、クイズ形式の学習モード、ユーザーランニング等の機能を搭載。学生チームはJSONファイルを用いた問題読み込みとクイズロジックを設計し、プログラムを触らずに拡張できる保守性の高い仕組みを構築。Webアプリ形式を採用しOS環境に依存せず開発コストを最小化。新規事業計画書にとどまらず、アプリ化の機能要件定義書を作成した。

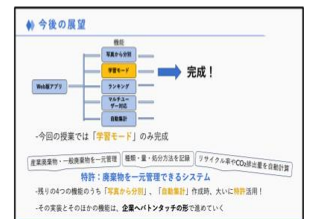
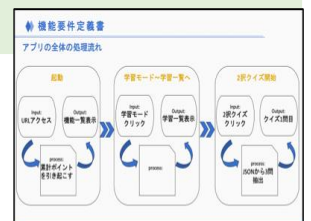
#### 特許とプロジェクトの概要

活用特許 「廃棄物を一元管理できるシステム」

共創企業 株式会社西原商事

ターゲット 教育機関（小学校・中学校の生徒）

コンセプト 未来の環境を育む、学びと遊び×分別アプリ



Case02 地域の廃プラスチックから航空燃料（SAF）を創出

地域で排出される廃プラスチックを回収し、FAIS保有の油化装置技術を用いて航空燃料の元となる油を抽出する地産地消モデル。高価で海外依存度の高いSAF(持続可能な航空燃料)の国内・地域調達ルートを開拓し、輸送に伴うコストとCO2排出量を大幅に削減する。スターフライヤーとの協働により、航空業界のサステナビリティ課題に大学発の技術で応える構想。学生や空港利用者のプラスチックリサイクル意識の向上と具体的な行動変容の促進も狙う。

特許とプロジェクトの概要

活用特許 「廃プラスチックの効率的分解方法」

共創企業 スターフライヤー

ターゲット 航空業界・モビリティ産業

コンセプト 廃プラスチックから地域循環型の  
SAF生産モデルを構築

FAIS製や環境エネルギー株式会社様に話を聞いてみた所

- そもそも廃プラを原料とした航空機の燃料規格がない
- どうしてもコストが多くなってしまふ

燃料が作れたとしても飛行機の燃料として使えない状態

生成した油分を航空機の燃料だけでなく、他の航空関連の用途としても考えて、企業様に提案してみようという形に

例えば... 空港で使われている車の燃料 洗車場の塗装

空港で使われるディーゼル車両

小型のバゲージトラクター トーイングカー

用途：手荷物・コンテナ引率 用途：航空機を牽引または押し出す

1日あたりの燃料消費(概算) 1日あたりの燃料消費(概算)

3L/9時間 × 8時間 = 24L/日 10L/時間 × 6時間 = 60L/日

→約20-30L/日 →約30-120L/日

廃プラからできた燃料を用いると...

HICOP-2000の基本仕様

廃プラ処理能力および生成油生成量120t/月 (200kg/hで稼働は2期とすると...)

(1)ディーゼル燃料 ⇒488 L/h × 90 円/L = 42,120 円/h ⇒42,120 円/h × 85 × 365 日 = 1,250,000,000 円

(2)SAFの総燃料費 ⇒150 円/L × 947 L/h = 142,050 円/h ⇒142,050 円/h × 1.4h × 60回 × 365 日 = 4,300,000,000 円

廃プラからジェット燃料の規格ができたとき

- 海外から取り入れているSAF(持続可能な航空燃料)を日本で精製できるようになり、輸送費の削減が期待される
- マイクロプラスチックや海洋ごみなどの環境問題解決に貢献することが可能

Case03 パーソナライズド・フードトレーサー

食の生産から販売までの履歴をQRコードでトラッキングするシステム。サイエンスパーク社のコア技術「改ざん防止・セキュリティ基盤」を活用。まず学食等のクローズドな環境で「Light版」として実証実験を実施し、スキャン行動にポイント付与で自然な需要創出の導線を設計。将来的に大手飲食チェーンへ展開時にセキュリティ基盤必須となる、自然な需要拡大シナリオを構築した。

特許とプロジェクトの概要

活用特許 安全なクラウドストレージアクセスシステム

共創企業 サイエンスパーク

ターゲット 食材情報や安全性に関心のある人、健康志向の人

コンセプト 情報提供の有無が飲食店の選択理由や信頼性向上につながるため、利用者属性に応じて表示情報を切り替える仕組み

使用した特許

【安全な行動クラウドデータシステム】

安全なクラウドストレージアクセスシステム

- ・ 認証、インターネット界から安全なアクセス
- ・ 端末種別を考慮した多層認証
- ・ 専用ソフトウェアで高い信頼性
- ・ クラウド設定を一元管理し運用負担を軽減

Executive Summary

QRコードで食材の履歴情報を見える化する事業 (software)

提供サービス: 消費者が食品に付与する履歴情報と安心の確保が実現できる

提供: 食品メーカーや流通事業者が安心な履歴管理を実現

提供: ターゲットを定めた食品情報の表示

ターゲット: 学食利用者 (学食の食材管理) 健康志向の人 (安心な履歴管理)

考察

- ・ 食材情報を求める消費習慣は定定的だが確実には存在する
- ・ 情報提供の有無が、飲食店の選択理由や信頼性向上につながる可能性がある

今後は利用者属性に応じて表示情報を切り替える仕組みを目指す

⇒ サイエンスパーク社の認証技術 (ID管理) を使う

学生: ボリューム、価格  
大人: 栄養バランス、産地

三つの視点でのメリット

- 消費者: 安心な履歴管理
- 事業者: 安心な履歴管理
- 社会: 安心な履歴管理